

令和8年度保護林モニタリング調査 調査箇所及び調査項目（案）

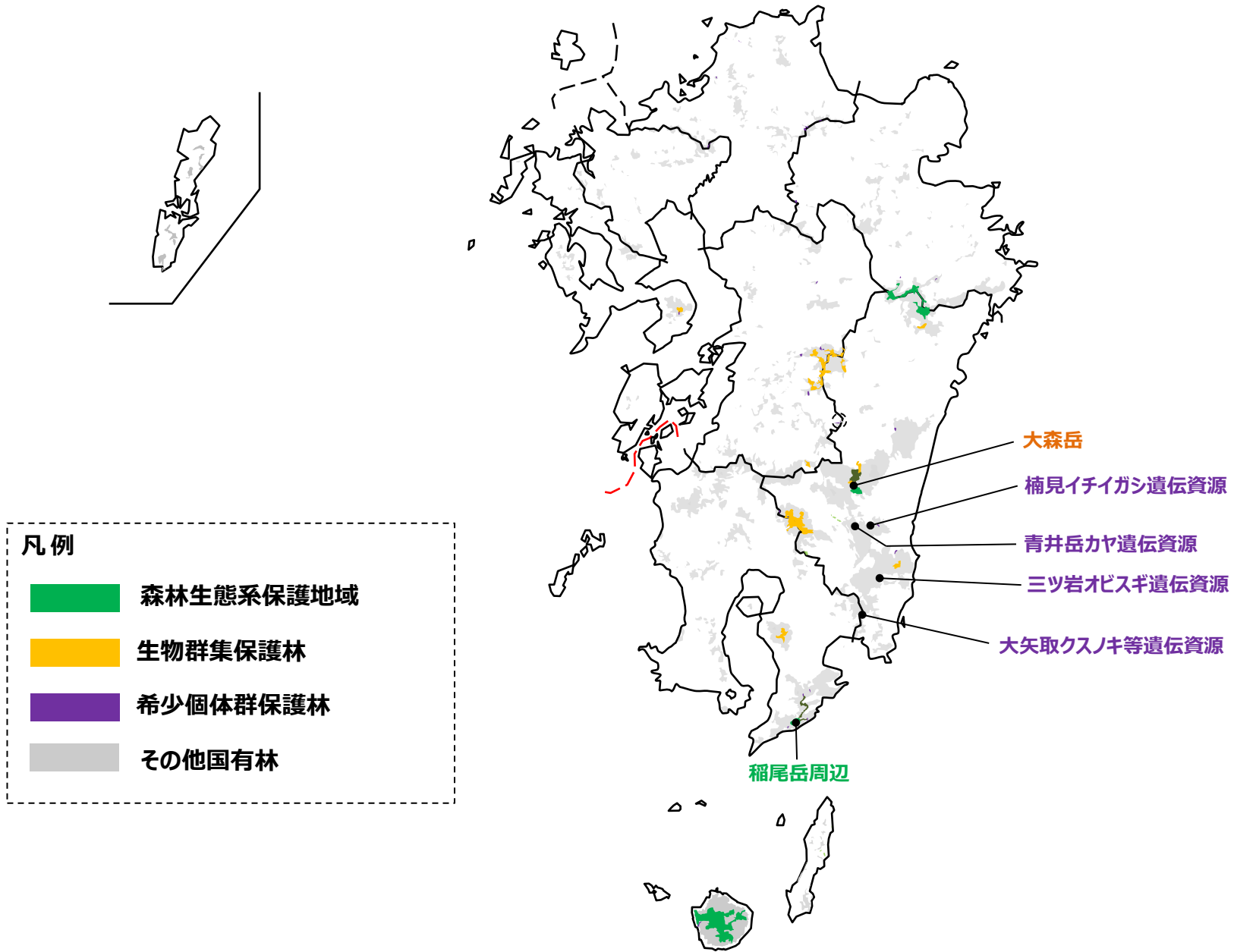
～ 目次 ～

1. 令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所一覧……………P1
2. 調査項目選択の基本的な考え方…………… P3
3. 調査手法選択の基本的な考え方…………… P5
4. 令和8年度保護林モニタリング調査項目一覧……………P6

1. 令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所一覧

区分	保護林名		森林管理署	ページ
森林生態系保護地域	①	稲尾岳（いなおだけ）周辺	大隅	8
生物群集保護林	②	重 大森岳（おおもりだけ）	宮崎	9
希少個体群保護林	③	楠見（くすみ）イチイガシ遺伝資源	宮崎	10
	④	青井岳（あおいだけ）カヤ遺伝資源	都城	11
	⑤	三ツ岩（みついわ）オビスギ遺伝資源	宮崎南部	12
	⑥	大矢取（おおやどり）クスノキ等遺伝資源	宮崎南部	13

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所位置図



2.調査項目選択の基本的な考え方①

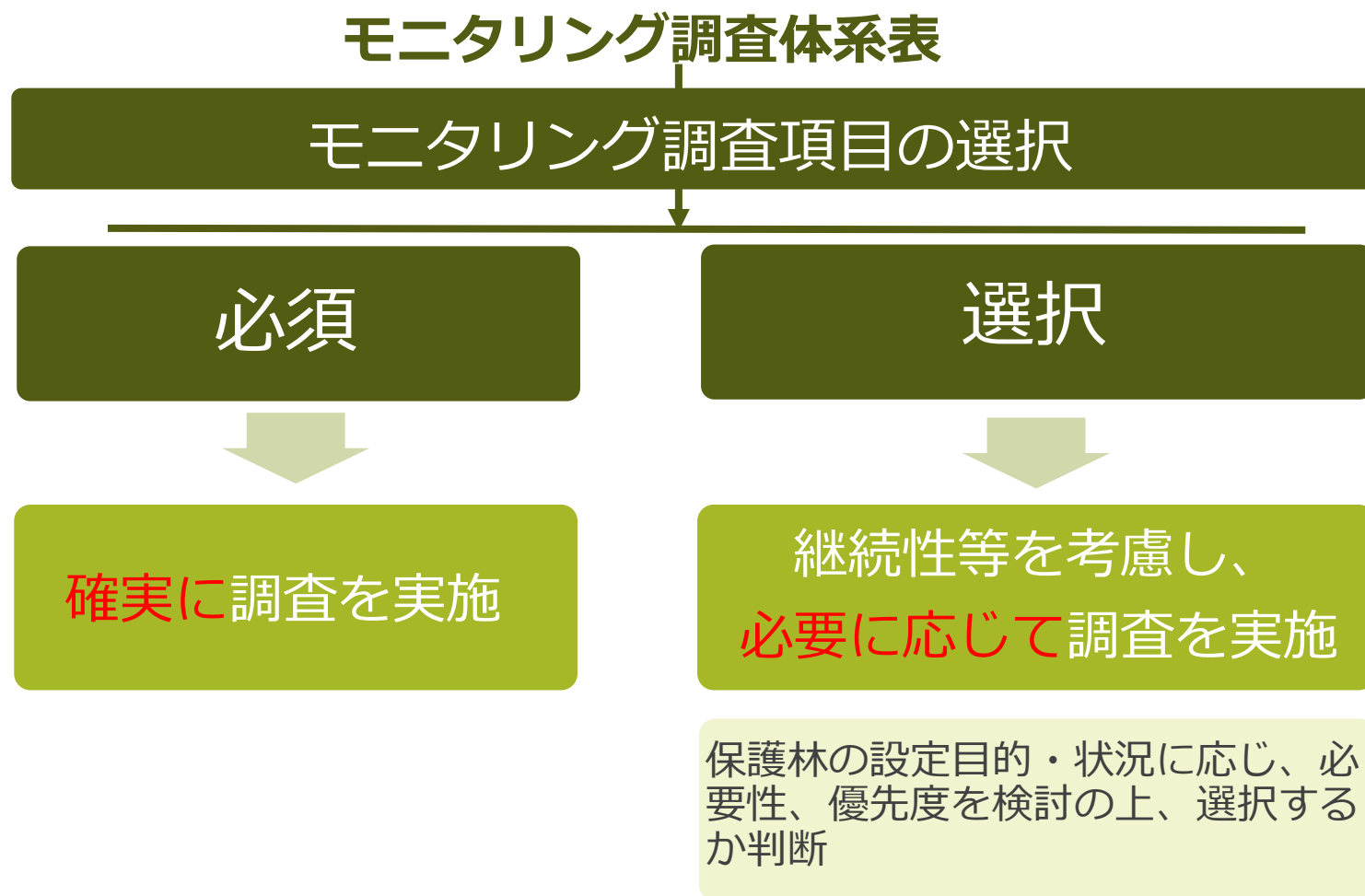
モニタリング調査体系表 (保護林モニタリング調査マニュアルP32～37参照)

生物群集保護林(参照)

保護林の機能 評価の観点	基準	指標	モニタリング調査項目		モニタリング調査手法 (モニタリング調査項目に対して複数の調査手法の区分が示されている場合には、原則として1 手法、特に必要がある場合には複数の手法を選択)		手法・野帳様式集 該当箇所	
			評価の観点	調査の選択 (必須/選択)	調査手法の区分	調査手法の例		
デザイン	地域固有の生物群集を有する森林が維持されている	自然状態が十分保存された天然林等の構成状況	森林タイプの分布等状況調査	保護林内及び周辺の森林タイプの構成がどのように変化しているか。保全利用地区においては、天然林への移行が進んでいるか。	選択	資料調査	最新の森林調査簿、国有林野施業実施計画図等を利用し、保護林情報図(森林タイプごとの面積・分布)を整理	A
			樹種分布状況調査	地域固有の生物群集を有する森林として自然状態が十分保存された天然林等たるべき樹種分布・構成となっているか。	選択	リモートセンシング	調査時点における最新の空中写真等を取得・整理	B
			樹木の生育状況調査	樹木の生育が、地域固有の生物群集を有する森林として自然状態が十分保存された天然林等たるべき状態にあるか。	必須	資料調査	既存資料(森林生態系多様性基礎調査、モニタリングサイト1000等)を活用し、樹木の生育状況を整理	C
価値	森林生態系からなる自然環境の維持、野生生物の保護、遺伝資源の保護が図られている	野生生物の生育・生息状況	下層植生の生育状況調査	地域固有の野生生物(植物)が生育しているか。外来種や特定の植物のみが増えていないか。	必須	資料調査	既存資料(森林生態系多様性基礎調査、モニタリングサイト1000等)を活用し、下層植生の生育状況を整理	F
			野生動物の生息状況調査	地域固有の野生動物が生息しているか。	選択	森林概況調査	調査表及び全天球写真を利用し、下層植生の生育状況を観察	D
						森林詳細調査	同一時期にプロット内に出現する全ての種を記録及び全天球写真を利用し、下層植生の生育状況を定点観察	G
		森林の被害状況	山火事・山腹崩壊・地すべり・噴火等の災害発生状況調査	災害がどこで発生しているか。被害状況はどの程度か。	選択	資料調査	既存資料(森林生態系多様性基礎調査、モニタリングサイト1000等)を活用し、野生動物の生息状況を整理	H
			病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査	病虫害・鳥獣害・気象害は発生しているか。被害状況はどの程度か。	選択	動物調査	自動撮影カメラ等を利用し、同一時期の一定期間内における野生動物の生息状況を記録	1-1(哺乳類) 1-2(鳥類) 1-3(その他)
						資料調査	災害履歴情報等(災害復旧、防災関連事業)を利用し、災害種類や件数、面積、分布等を整理	J
						リモートセンシング	保護林区域を明示した空中写真を(立体視)判読して、大規模な災害発生箇所(山腹崩壊等)を確認	K
						資料調査	既存資料等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を調査	L
			森林概況調査	調査表やチェックシート等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を観察	D			
			森林詳細調査	プロット内の樹木の病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を定量的に調査	M			
利活用	森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に利用されている	学術研究での利用状況	論文等の発表状況調査	主にどのような学術研究に利用されているか。	選択	資料調査	インターネット等を利用し、学術論文数等を整理	N
管理体制	適切な管理体制が整備されている	保護林における事業・取組実績、巡視状況等	外来種駆除、民国連携の生物多様性保全に向けた事業・取組実績、巡視の実施状況調査	対象保護林の設定目的や課題に対応した管理体制、事業・取組となっているか。	選択 (保護林等整備・保全対策による事業等が行われている場合には必須)	聞き取り調査	業務資料や担当官への聞き取り調査により、保護林の管理体制、事業・取組実績を確認	O

2.調査項目選択の基本的な考え方②

※保護林モニタリング調査マニュアルP11,32～37参照



3.調査手法選択の基本的な考え方

※保護林モニタリング調査マニュアルP15,16参照

モニタリング調査体系表

それぞれの調査項目に対する
モニタリング調査手法の選択

複数の調査手法がある場合、原則として1手法を選択

シカ食害・病虫害等により、植生
変化が懸念、個体群の消失が危ぶ
まれている箇所

特に問題が認められていない

森林**詳細**調査

調査プロットを設定して
保護林の状況を把握する
詳細な現地調査

毎木調査 + 植生調査

森林**概況**調査

チェックシート等を用いて
保護林の状況を把握する
簡易な現地調査

4. 令和8年度保護林モニタリング調査項目一覧

◎：必須実施、●：選択

	重点対策17保護林	保護林名	区分	森林タイプの分布	樹種分布	樹木の生育			下層植生の生育			野生動物の生育・生息			災害発生状況		病虫害・鳥獣害			利活用	管理体制	保護対象種の生育・生息		植生保護柵内の植生	
				A	B	C	D	E	F	D	G	H	I-1	I-2	I-3	J	K	L	D	M	N	O	P	Q	-
				資料調査	リモート	資料調査	森林概況	森林詳細	資料調査	森林概況	森林詳細	資料調査	哺乳類	鳥類	その他	資料調査	リモート	資料調査	森林概況	森林詳細	資料調査	聞き取り	資料調査	森林詳細	森林詳細
①		稲尾岳	森林生態系保護地域	◎		◎		◎	◎		◎	●	●	●	●		◎	◎	◎	◎	◎				
②	重	大森岳	生物群集保護林			◎		◎	◎		◎	●	●	●			●	●	●		●			●	
③～⑥		上記以外すべて	希少個体群保護林			●		●	●		●						●	●			●	◎	◎		

重点対策17保護林に該当する保護林については 二ホンジカ対策の評価項目を引き続き実施

- ・ 柵内外の植生調査
- ・ 柵の点検、修理
- ・ 新たな柵の設置箇所の提案

植生保護柵内の植生調査

【目的】 保護対象種の確実な育成を図るため。

【対象地】 重点対策17保護林内の植生保護柵のうち、既設プロットに隣接する各1つを選択する。

①保護柵内外の植生調査

植生の保護・再生状況等を把握するため、監督職員と協議のうえ、植生保護柵設置箇所から1箇所以上選定し植生保護柵内外の植生調査を実施し、今後の対応策を提案する。

②保護柵の保守点検・修理

保護柵の保守点検を行い、破損している場合には修理する。なお、対応が不可能な規模の修理を伴うものについては、本調査事業の監督職員へ破損状況等を連絡するものとする。

③保護柵の新たな設置箇所の検討

優先的に保全すべきエリアとシカ柵設置箇所を設定するための調査を実施し、提案する。

④保護柵内の植生の保護・再生の補助作業の検討

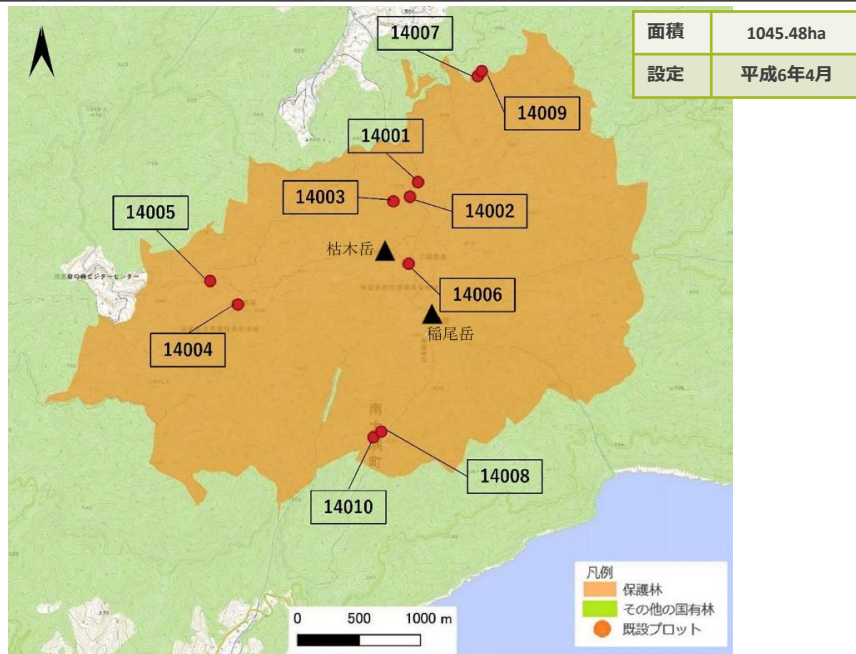
繁殖力の強い種が保護対象種を被圧し、保護対象種の生育に影響が生じている場合や、今後の生育に影響を与える可能性があるかと判断された場合、対象種の保護や再生の補助作業の必要性について提案する。

① 稲尾岳周辺森林生態系保護地域

九州本土最南端の大隅半島、鹿児島県肝属郡肝付町、錦江町、南大隅町に位置し、当該地域の中心部に位置する稲尾岳は原生的な天然林となっており、「タカクマミツバツツジ・シロモジ」等の南限植物、「オオコマユミ、ムチャガラ」の北限植物が見られる。

保護・管理を図るべき事項

原生的な天然林を保存することにより、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、学術研究などに役立てるとともに、これらの森林を後世に引き継いでいくこととする。



R3 結果（森林詳細・シカ被害）

- シカ被害レベル **0**
- 保護対象樹種のスダジイ、イスノキ、モミ、アカガシ等の健全な生育が確認された。
- 保護対象樹種や林冠構成種の後継個体として、アカガシ、イスノキ、モミ、ウラジロガシ等が確認された。
- 低木層、草本層ともに種構成に大幅な変化はなく、シカの食害の影響は生じていなかった。
- 1つのプロットでカシノナガキクイムシによる被害木が1本確認された。
- 自動撮影カメラではニホンザル、ノウサギ、タヌキ等が確認され、シカは確認されなかった。

R7 調査項目

【必須項目】

森林詳細調査・資料調査

【選択項目】

野生動物の生育・生息状況調査



無人航空機による空撮



プロット14010

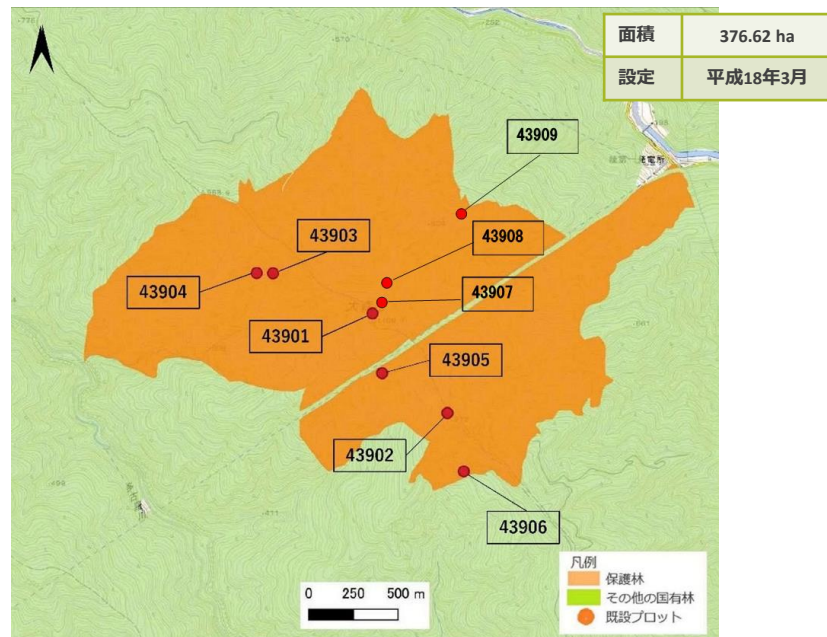
おもりだけ

②大森岳生物群集保護林

宮崎県綾町、小林市が接する市町村界に存在し、九州中央山地最南部の大森岳山頂周辺一帯に位置する。大森岳は、綾北川と綾南川に挟まれる格好で北西から南北方向へ伸びる山塊で、周辺の森林は、常緑広葉樹林が大面積に残り、多様な着生植物や林床植生が生育する。

保護・管理を図るべき事項

暖温帯モンスーンの照葉樹林として、西日本の自然を代表する極めて重要な自然生態系を呈している。これらの学術的価値の高い照葉樹林群落の一体的な維持を図り、併せて、地域の森林林業、森林管理技術の発展、学術研究等に資する。



R3 結果（森林調査・シカ被害）

- シカ被害レベル**3（3~4）**
- 保護対象樹種のアカガシやウラジログシガが確認され、生育は健全であったが、シカによる食害のため後継個体は確認されなかった。
- 低木層及び草本層はシカの忌避植物が優占しており、下層植生の回復は見られなかった。
- 自動撮影カメラによる哺乳類の確認種はシカが大半を占め、ほかにはタヌキ、アナグマ、テン、イノシシが確認された。

R7 調査項目

【必須項目】

森林詳細調査・資料調査

【選択項目】

野生動物の生育・生息調査

病虫害・鳥獣害の発生状況調査

植生保護柵内の植生調査



無人航空機による空撮



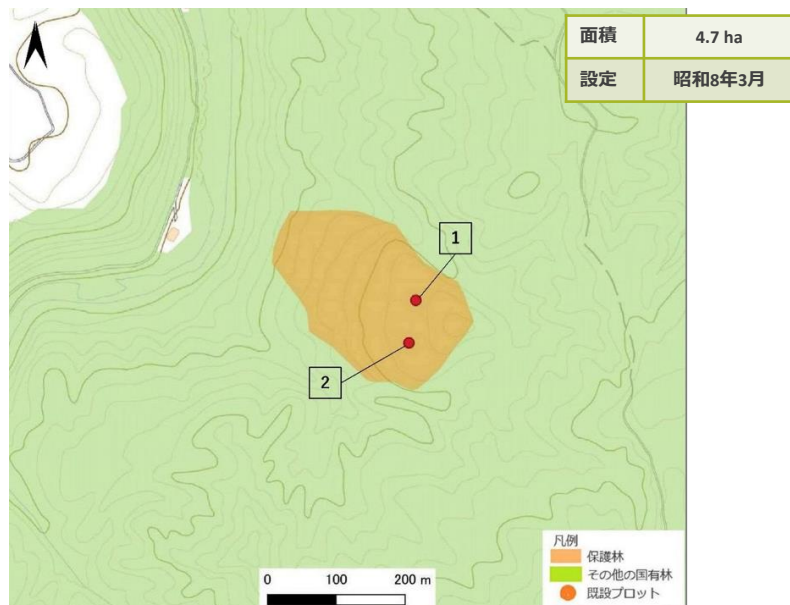
プロット43908

③楠見イチイガシ遺伝資源希少個体群保護林

宮崎県高岡町内の国道10号線の南方で、近傍には国指定天然記念物「去川の大イチョウ」や薩摩街道の去川関所跡等もある。保護林の周囲は国有林であり、林相は、スギ人工林が主で、スギ林に囲まれたイチイガシの広葉樹林がある。以前はイチイガシの母樹林として種子の採取が行われていた。

保護・管理を図るべき事項

イチイガシの保存



無人航空機による空撮



プロットNo.2

R3 結果（森林調査・シカ被害）

- シカ被害レベル**2**
- 保護対象樹種のイチイガシの生育は健全であり、後継個体も全2プロットとも確認された。
- 低木層はクロキやイヌガシ等の小径木が優占するものの、アオキの生育が確認されず、種構成に変化が生じていた。
- 常緑広葉樹林のためか草本層の被植率は低かった。
- 希少種としてエビネ属、シュスラン属が確認された。

R7 調査項目

【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細調査・資料調査

【選択項目】

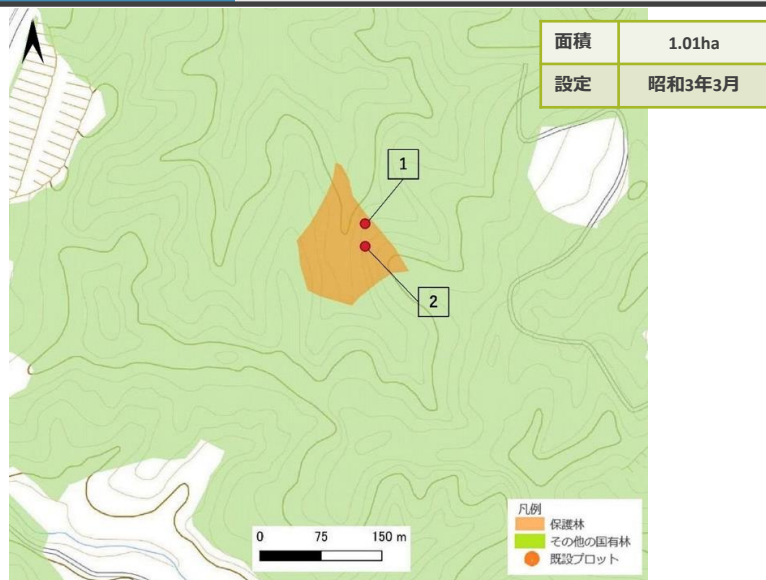
各事項に係る森林詳細調査・資料調査
 病虫害・鳥獣害の発生状況調査

④ 青井岳カヤ遺伝資源希少個体群保護林

宮崎県山之口町の国道269号線と宮崎自動車道の東方に位置し、周囲の林相はスギ人工林が大部分を占めているが、保護林内のイスノキ、コジイ、タブノキ等の林齢は150年生以上の照葉樹林となっている。平成12年に「森の巨人100選」に、平成4年に「宮崎巨樹百選」に選ばれたカヤがある。

保護・管理を図るべき事項

歴史的・学術的価値を有するカシ、タブノキ、その他広葉樹の天然林であり、天然林施業・学術研究等に資する。



R3 結果（森林調査・シカ被害）

- シカ被害レベル1
- 保護対象樹種であるカヤ大径木は健全に生育していた。
- カヤの後継個体は確認できなかったが、林冠構成種の後継個体としてタブノキ、ヤマビワ、スダジイが確認された。
- 低木層はホソバタブ、アオキが優占し、草本層の被植率はやや高かった。
- 一方のプロットではウラジログシ、もう一方のプロットではマテバシイにカシノナガキクイムシの被害が確認された。

R7 調査項目

【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細調査・資料調査

【選択項目】

各事項に係る森林詳細調査・資料調査
病虫害・鳥獣害の発生状況調査



無人航空機による空撮



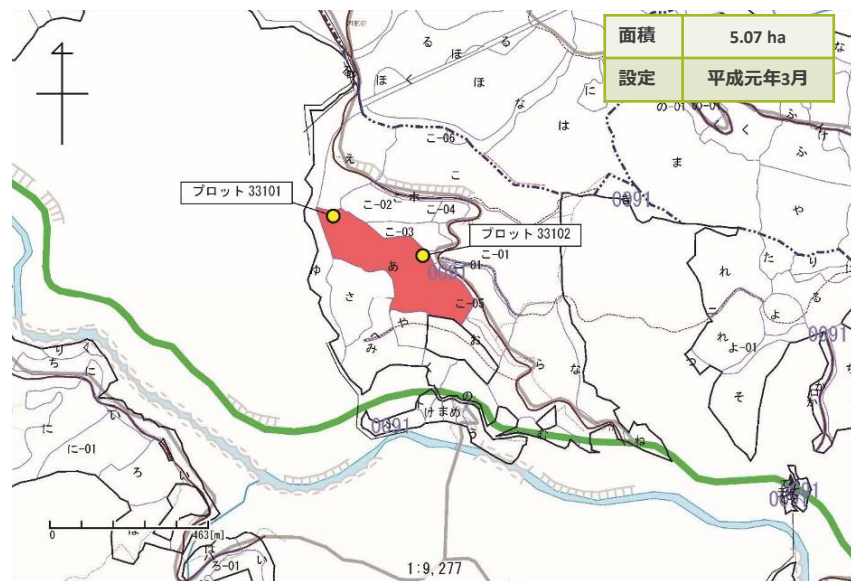
プロットNo.2

⑤三ツ岩オビスギ遺伝資源希少個体群保護林

宮崎県南部北郷町の県道に接する位置にあり、400年の歴史を有する肥沃林業唯一の古い年代の造林地。オビスギの成長過程を知るための貴重な林分であり、全国からの見学者も多い。

保護・管理を図るべき事項

オビスギの個体群の持続性を向上させることを目的とし、併せて森林施業、管理技術の発展、学術研究等に資する。



H29 結果 (森林調査・シカ被害)

- シカ被害レベル0
- 保護対象樹種の生育は健全
- シカ被害はなし
- 下層植生は繁茂

R7 調査項目

【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細調査・資料調査

【選択項目】

各事項に係る森林詳細調査・資料調査
病虫害・鳥獣害の発生状況調査



プロット33101



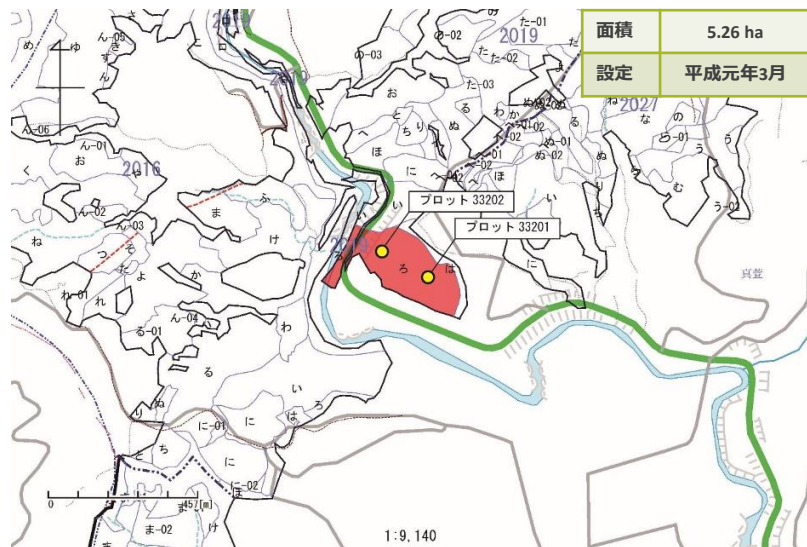
プロット33102

⑥大矢取クスノキ等遺伝資源希少個体群保護林

串間市の国道220号線から分岐して都城市へ至る県道沿いで、大矢取川にも接した位置にある。江戸時代に蓬野氏が植樹したと伝えられており、クスノキの大木がまとまり群生しているのは貴重。一見、クスノキの純林に見えるが、イチイガシ、タブノキ、シイ類等も混入し、多様な植生を有している。クスノキの林齢は約350年生以上と考えられている。

保護・管理を図るべき事項

クスノキ老齢林、イチイガシの個体群の持続性を向上させることを目的とし、併せて森林施業、管理技術の発展、学術研究等に資する。



H29 結果 (森林調査・シカ被害)

- シカ被害レベル0
- 保護対象樹種の生育は健全
- シカ被害はなし
- 下層植生は繁茂



プロット33201



プロット33202

R7 調査項目

【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細調査・資料調査

【選択項目】

各事項に係る森林詳細調査・資料調査
病虫害・鳥獣害の発生状況調査